

2012年(平成24年)12月20日(木曜日)

# 湯浅 W杯3位

## アルペン回転

### 腰痛でも諦めず 攻めて逆転

アルペンスキーのワールドカップ(W杯)は18日、イタリアのマドンナデイカンピリオで男子回転第3戦が行われ、湯浅直樹(スポーツアルペン)が自身初のW杯表彰台となる3位に入った。アルペン男子で日本選手が表彰

台に立ったのは、2006年3月の佐々木明(ICI石井スポーツ)以来、7年ぶり4人目。10年のバンクーバー五輪では代表入りを逃した29歳が、1年2か月後に迫ったソチ五輪に向けて弾みをつけた。(ロイターなど)

#### アルペンスキーW杯 3位以内の日本選手

年	名前	種目	順位
1988年	岡部 哲也	回転	2位
90年	岡部 哲也	回転	3位
98年	木村 公宣	回転	3位
2003年	佐々木 明	回転	2位
06年	佐々木 明	回転	2位
12年	湯浅 直樹	回転	3位
1993年	川端 絵美	滑降	3位

(注) 複合は除く (時事)

日本男子のエース、湯浅が念願の表彰台に立った。アルペン男子では4人目の快挙に「信じられない」。興奮冷めやらぬ声で振り返った。腰痛を抱えての本番。1回目のタイムは54秒13。全体で26位と大きく出遅れた。だが、「2回目を棄権しようなんて考えなかった。順位を上げることだけを考えた」と決して諦めなかった。2回目は果敢に攻めて、全体で2番目の50秒65をマーク。「この状態で滑れるなんて誰が想像できたか。自分で

も最後(の滑り)は覚えていない。極限まで自身を追い込んだ滑りで、3位の座をつかみ取った。2011年の世界選手権回転で6位入賞。昨季のW杯回転では、5位に2度入るなど、世界で戦える力を蓄えてきた。今回も、2回目で大きく順位を上げて3位に食い込んだレースは、価値が高い。

W杯の表彰台からしばらく遠ざかっていたアルペン日本男子にとって、頼もしい存在となってきた。(時事)



W杯で初の表彰台に立った湯浅の滑り (AP)

## W杯アルペン 回転3位



自身初の表彰台となる3位に入った湯浅直樹=マドンナデイカンピリオで (共同)

### 湯浅「奇跡ではない」

「マドンナデイカンピリオ(イタリア)」。共同アルペンスキーのワールドカップ(W杯)は18日、当地で男子回転第3戦を行い、29歳の湯浅直樹(スポーツアルペン)が3位に食い込み、自身初の表彰台となる3位に入った。岡部哲也、木村公宣、佐々木に次いで4人目の快挙を達成した。いちはばちかの攻めで2006年トリノ五輪の7位入賞をつかんでから、速さと確実性を両立させようと滑りを改良してきた。その成果がようやく出た。10年バンクーバー五輪は出場を逃した。11年世界選手権で6位、昨季W杯で2度の5位と着実に進歩してきただけに「これは奇跡ではない」と強調した。アルペンW杯の常連でただ一人使用する日本メーカーのスキーを自在に操り、冷える夜の急斜面を切り裂いた。1回目は26位だったが、2回目は2番目のタイムを出した。素早いターンで方向を変えて次の旗門を狙い、「いつもの僕らしい滑りができた」と誇らしげだった。ライトナー・チーフコーチが「本当なら3、4カ月は休ませたい。滑れているのが信じられない」と言っほどの腰痛を抱えながらの快走で、上位15人の第1シード入りにあと一步と迫った。来季2月の世界選手権は過去にトップ10が3度ある相性のいいシュライトミング(オーストリア)だけに期待が膨らむ。(マルセル・ヒルシャー(オーストリア)1分42秒50(50秒07、50秒07)のフィロイター(ドイツ)1分44秒17(湯浅直樹(スポーツアルペン)1分44秒78(54秒13、50秒65))。ヒルシャーは今季2勝目、通算14勝目、佐々木明(ICI石井スポーツ)は1回目に落選)